

【二月の言葉（令和四年）】

人間の不幸は比べ合いから始まる。

違いを認め合える平和な世界を。

近頃、クレヨンだいたいの「肌色」を「薄橙だいたい」とか「パールオレンジ」と呼ぶそうです。肌の色は、人種によって異なります。黒人もいれば白人もいて、肌の色はバラバラです。相手を尊重する配慮からの呼称変更と思われまこしょうす。

人間の不幸は、比べ合いから始まります。自分を是とし、相手を非として排除しがちな私たちです。ケンカ・いじめ・差別・戦争……。これらの問題は、違いを認められない心を根幹としています。違いを認め合える平和で安心な世界は、どんなに素晴らしいでしょう。

阿弥陀如来は、自他の隔へだてがなく万人を差別なく受け入れると誓われた仏さまです。人間の理想の究極であり、目標とすべき姿です。そのようにありたいとあこがれつつも、遠く及ばない自身を恥じながら、ただ阿弥陀如来

を羨望せんぼうするばかりです。

（吉村隆真著「心の読み葉」参照）